

(補足資料) 三陸道利用圏外の自動車アクセス性について

各候補地までのアクセス時に三陸道の利用が想定されないエリア（旧気仙沼市，下図「○」印が付くメッシュ）を対象に，候補地ごとの一人当たりの平均所要時間を算出しました。

その結果，旧市立病院（9.3分）が最も短く，現位置（11.5分）と2.2分の差が出る結果となり，対象人口約4万人の総所要時間で見ると，約9万分（約1,500時間）の差となります。

所要時間が短い順に並べたときの中央に位置する人の所要時間を示す指標である中央値を見て，旧市立病院（8.0分）が最も短く，現位置（10.0分）と2.0分の差が出る結果となりました。

最も時間のかかる人は何分掛かるのかを示す最大値を見ると，旧市立病院（28.0分）が最も短く，現位置（33.0分）と5.0分の差が出る結果となりました。

また，平均値に対するばらつき具合を示す指標である標準偏差を見ると，旧市立病院が最も小さいですが，平均値に対するばらつき大きさの比率を示す指標である変動係数で比較すると，現位置（0.62），旧市立病院（0.64）となりました。

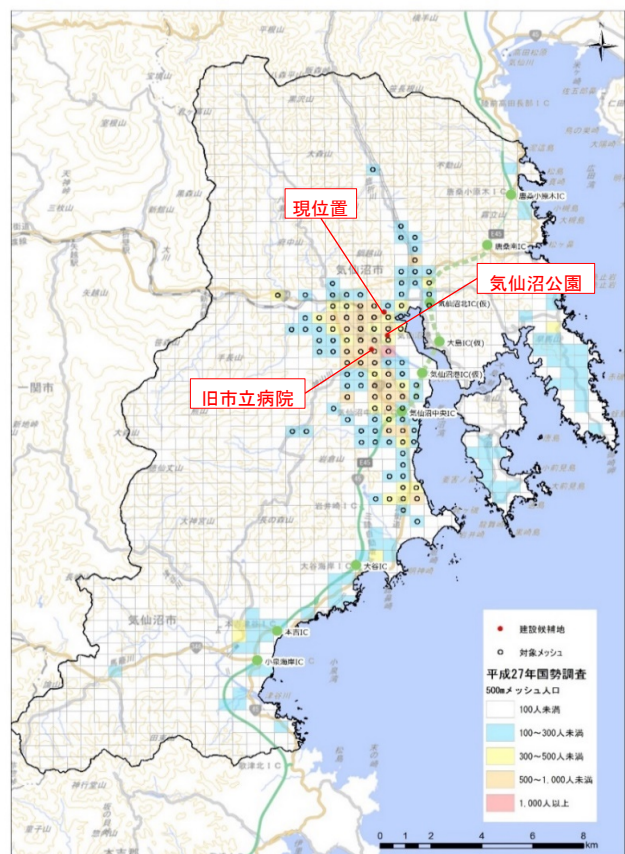
よって，対象地域の自動車アクセスにおける公平性という観点では，旧市立病院の方が最大値が小さく，便利な人と不便な人の差が小さい。一方，平均値に対するばらつき（変動係数）は現位置の方がわずかに小さい結果となりました。

なお，所要時間の短縮は，市民の利便性の向上だけでなく，二酸化炭素排出量の削減にも繋がります。

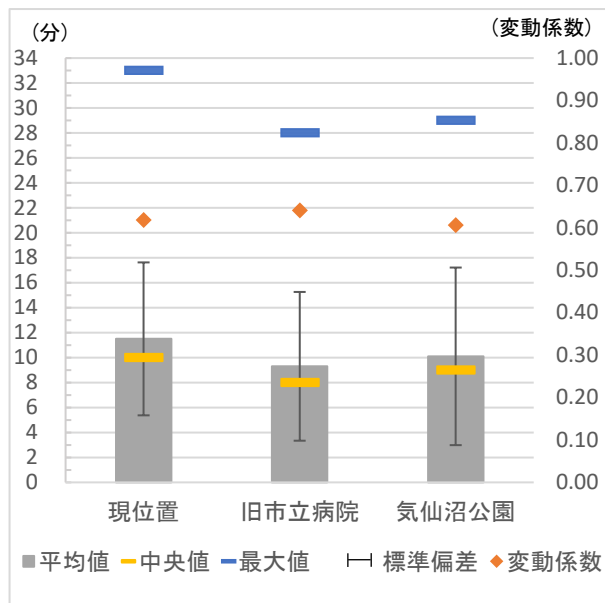
■各候補地への所要時間の統計表

	現位置	旧市立病院	(参考) 気仙沼公園
平均値(分)	11.5	9.3	10.1
中央値(分)	10.0	8.0	9.0
最大値(分)	33.0	28.0	29.0
標準偏差(分)	7.1	6.0	6.1
変動係数	0.62	0.64	0.61
対象人口の 総所要時間(分)	463,586.0	374,066.0	408,165.0

■ 500mメッシュ当りの人口（H27）と対象メッシュ



■各候補地への所要時間の関係



※標準偏差とは：平均値に対するばらつき具合を示す指標。

各データと平均値の差の2乗を全て足した値を，データの個数で除した値の平方根で表す。

※変動係数とは：標準偏差を平均値で割った値で，平均値に対するばらつきの関係を相対的に評価する際に用いる。
変動係数＝標準偏差÷平均値

■ 各候補地への所要時間別人口

